

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101239		
法人名	株式会社 ヒューマン・ネットワーク		
事業所名	介護支援センター ながさき グループホーム福田		
所在地	長崎県長崎市小浦町4番地11		
自己評価作成日	令和元年11月15日	評価結果市町村受理日	令和2年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和元年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年7月より事業所内で委員会を設置。身体的拘束・口腔衛生管理・食事・レクリエーション・排泄の5つを特化し、入居者様の日々の生活の向上を図っていきます。入居者様とのコミュニケーションも密にとり、過ごしやすく、楽しい雰囲気づくりに努めています。家族様とも運営推進会議以外でも面会時にはお話を聞き、状況説明や今後の話などもマメにさせて頂いている。委員会活動としても2年目に入り、基礎知識が身についたところで、2年目では専門的な知識を学ぶため日々委員会メンバーが研修や情報収集を行っています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は海のそばに位置しリビングからは海が一望できる。「愛と信頼、そして幸せ」を理念に掲げ、入居者の安心やゆとりと温もりのある人間関係、思いやりのある地域との関係づくりを目標に日々支援している。入居者のプライバシー遵守や排泄支援によるおむつの改善、センサーを利用しない支援など介護に関する意識が高く、日々の入居者支援について目標を高く設定している。また、2ヶ月に1度開催する運営推進会議は、入居者家族の参加も多く毎回活発な意見や要望が出て、事業所運営に反映しており、事業所の発展に欠かせないツールにもなっている。さらに、各種委員会の設置やマニュアルの整備は事業所の運営のベースとなっている。事業所職員はいろいろな問題や課題について、改善する姿勢が備わっており、常に高みを目指す風土となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念「愛と信頼、そして幸せ」のもと日々利用者様と生活させて頂いている。事業所理念などは掲げていない。	代表者は職員の入社時に自ら研修を行い、理念について説明している。朝礼時には月2回理念を唱和しており職員は全員、暗記している。職員は理念を念頭におき、入居者に対して「愛と信頼、そして幸せ」をもとに一人一人に寄り添った支援を実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の話し合いにも参加させていただき職員も利用者様も、地域の行事ごとに参加させて頂いている。	自治会に加入しており、管理者は地区の会議に参加して近隣の情報を得ている。地区の夏祭りを職員や入居者が見物したり、ペーロン大会の後片付けに職員が参加している。近隣住民に対して職員は駐車場清掃時に挨拶しているが、事業所を訪れる地域住民が少ない。	事業所内に「地域交流センター」という広いスペースもあり、地区の行事への場所の提供、地域に向けた講習会開催など、地域との交流の機会を増やすためのさまざまな取組みに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会などで自治会の方にも、入居者様の日常の様子など説明を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様などにご意見として頂いたものに関しては、参考にさせて頂いている。施設会議などでも周知を図っている。	7、8名の家族、地域代表、職員などが参加し、年に6回開催している。行事内容、委員会活動の報告や質疑応答を行っている。議事録から毎回出席者から活発な意見が出ていることが確認できる。実際に意見を取り入れることも多く、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運推進会議にも地域福祉課の方を招き、状況や取り組みをお伝えし、お話を聞かせて頂いている。	年に1回、介護相談員の受入れを行っている。高齢者すこやか支援課や介護保険課の担当者には運営推進会議前に個別で相談を行っている。また、介護認定更新時にもケアマネージャーが市に連絡するなど、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束委員会を立ち上げ、拘束をしない取り組みなどの話し合いをおこなっている。	事業所内にfreedom委員会と名付けた身体的拘束委員会がある。委員会を中心にセンサーや言葉の拘束、服薬の支援方法など「不適切ケア」を行っていないか、継続的に職員に聞き取りを行い改善に努めている。身体拘束等の指針も整備し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間でも話を行い、勉強なども行っている。利用者様の様子観察を常に行い、変化があれば報告するようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中には後見人制度を利用している方もおられるが、現場職員への事業や制度についての話し合いなどは行えていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みの時点でも話はさせて頂き、理解を頂けるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族様からの質問やご意見などをお聞きし、サービスに反映させるようにしている。	苦情・相談窓口については重要事項説明書に記載し家族への説明と同意を得ている。意見・要望を表した家族には個別に対応し、事業所内で共有している。実際に家族の意見から退居時の現状回復工事に関する同意書を新たに作成して説明を行っており、運営に反映していることがわかる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議の中で業務改善についての話し合いを全職員で行い、そのほかでも年に2回の個別面談を行っているが、その時だけでなく、日頃から職員とは様々は意見を交換している。	毎月の業務改善会議で職員から出た意見については話し合いの場を設け、「連絡ノート」で内容を回覧している。代表者が事業所を訪れた際は直接意見を聞き取っている。法人本部に「人事委員会」があり、勤務時間や休暇など働き方相談を受け個別に対応する仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回自己評価する機会を設けている。半期ごとの反省を踏まえて、新たな目標設定を立てています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内でも自主研修を開催し、職員が参加できる環境を作っている。また外部で実施されている研修の案内などがあれば、開示し、参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、他施設の管理者などと今後交流が出来ればと思っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の時にとにかく話を聞き、不安なことなどがあれば日々声掛けや確認などを一緒に行うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族様と話を密に行い、不安や疑問などに返答・対応などをする。契約を交わす際に細かく話を行っており、約2時間以上は費やしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様のニーズと家族様のニーズを確認し、必要性を確認。対応方法などを話し合いする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んだり、干したり、簡単な作業は職員と一緒にするようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の希望と家族様の望むものが必ずしも同じとは限らないので、必要があれば一緒に話を行い、入居者様に最良となるよう支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問美容などもあるが、本人様がいままでの美容師などを希望すれば、依頼などを行っている。	近隣住民の訪問や家族に毎日電話する入居者もいる。また、家族や職員の付き添いで冠婚葬祭に出席している。利用開始前の自宅での面談や以前のケアマネージャーから生活歴を聞き取り、内容を職員にフィードバックして馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなども行っているが、利用者様同士が話しやすいようにリビングでも職員が間に入って話をしたりしている。またトラブルにならないように日頃の関係性なども踏まえ、座席の場所なども考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となった方のほとんどが、病気などで施設復帰困難となり長期の入院になっている。入院先のご様子などお伺いしていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様とは日頃から話をさせて頂く中で、ご希望などないか聞いている。困難なことを希望されることなどはいまは無し。	入居者の新しい行動や発言については、職員で話し合い、委員会でまとめている。思いを言葉で伝えることのできない入居者については、表情から把握したり、家族から情報を得て、解決できた事例もあり、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴等をフェイスシートで把握し、職員全員で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の業務日誌や夜勤日誌などを必ず確認するようにしている。業務に入る前にも職員間で一言変化などについて話をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、事前に現場職員からの情報をもとに、ケアの見直しをしています。	入居前にフェイスシートや調査表をもとに入居者の意向を踏まえケアマネジャーが介護計画を作成し、職員に説明後、入居者への同意を得ている。見直しは半期ごとであり、入退院後は、医師と連携し計画を見直している。また、毎月の部署会議で各入居者の計画見直しについて検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にカンファレンスを行い、日々の変化で変わったことがあれば記録に残し、業務に入る職員にも状態を伝えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他のサービスは受けていないが、本人様から何かしら希望があれば、対応できるように家族様に相談させて頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な物など地域にあれば一緒に外出し利用している。その人らしい生活ができるように支援する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様が以前からのかかりつけ医を希望することもできる。情報の共有などを図り、入居様にとってよりよい施設となるよう支援する。	眼科や皮膚科など現在も引き続き、かかりつけ医を利用している入居者は多い。基本的に家族が同行しており、同行が困難な場合は事業所の看護師が対応し、受診結果を家族に報告している。協力医の場合は2週間に1度の往診がある。24時間対応の協力医もあり、緊急時も安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で1名の看護師がいるが、公休などでない日もある。事前に体調不良などが続いている入居者様の様子などは休みでも報告を行い、情報の共有は常に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行った際などに、状況の確認を行い、入院期間や退院後の対応などを情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前指示書を取り、どのように対応してほしいかなどのお話をしているが、なかなか答えを出せない家族様が多くいらっしゃるのと、何度でも話し合いを行っている。	看取りに関しては指針により条件が合致した場合に取り組むこととしている。入居者から看取りに関する同意の他、治療に関する希望を事前指示書にて確認している。現在、看取り支援を行っていることもあり、エンゼルケアを含めた職員向けの研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあるので各ユニットに貼りだし、活用している。、職員一人だけという状況は無いので、一緒に居る職員と協力し、看護師・管理者への報告などを早期に行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月の消防訓練に合わせて、非常災害時の勉強会も行い、落ち着いた行動が取れるように心がけている。	火災における避難訓練は昼夜想定で実施している。年に2回の消防署等立会いによる訓練を予定していたが、立会いはできていない。災害マニュアルを整備し、水や食料など3日分の備蓄や非常持ち出し品を準備している。ただし、自然災害対応の訓練は現在のところ未実施である。	現在、どのような災害が起こるかわからないため、想定できる自然災害における避難訓練の実施が望まれる。また、訓練における消防署立会いや災害時における地域の協力は不可欠であるため、日頃から連携を図るよう取組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切な言葉遣いで対応出来る様に声を掛けあっています。利用者様の情報などを話時などは、周りの利用者様などに聞かれないようにしている。	入社時に職員から誓約書を得ている。職員は、ホーム内で入居者のプライバシーに関する会話はしないよう決めており、声掛けも耳元で囁くように行っている。また、ポータブルトイレは使用しないときはカバーをするなど配慮している。入居時に写真等の個人情報使用の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	突然の外出希望などは対応できないこともあるが、施設内でのことなどは利用者様本位で対応するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、本人の意向に沿った支援を行っているが、スケジュールなどはある程度決まっている。無理に参加はさせないようにしている。職員からは助言や提言などを行い、利用者様同士でも楽しく過ごして頂ける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を毎月行い、利用者様の整容なども来がけて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を定期的に行い、好みに合うように提供している。準備・片づけも出来る方は一緒に行っている。	年に2回、利用者や職員への嗜好調査を実施しメニューに反映しており、行事食や月に一度の外食も行っている。食事委員会では、看取り支援の利用者への食事形態を検討している。また、食事の時には車椅子利用者はテーブルの椅子に移乗して食事を提供するなど配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立・味付けの指示などは栄養士からあり、水分補給の量や食事摂取量なども記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	事業所内で口腔委員会を立ち上げ毎月の介護を行い、協力委の歯科医師にも毎月参加していただき、現状の確認と、今後の方向性などを話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	事業内で排泄に関する委員会を立ち上げている。本当におむつが必要か・リハビリパンツではなく、布パンツで対応できるなどを話し合い、実際に改善できている方が多い。職員の負担となる部分もあるが、全員で考え方を統一できるように活動している。	排泄チェック表を作成しタイミングを計りながらトイレ誘導を行っている。排泄に関する委員会を設置し、布パンツへの移行を検討している。実際に、開設後、布パンツに改善できた例もある。また、誘導時には利用者の耳元で囁くよう伝えるなど配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬で調整もしているが、レクリエーション時に体を動かしたりしている。水分の補給も細目に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けを行い、入浴へお誘いしている。その時が駄目でも時間を置いて入られることもある。	入浴は週に3回であるが、現在は職員不足の関係で家族の承認を得て2回となっている。入浴できない時は清拭等で清潔を保っている。お湯は一人ずつ入れ替え、車椅子利用者には機械浴も準備している。介助は同性介助を基本とし、入浴を入居者の怪我の確認や気分転換としても捉えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、極力臥床し、民様でお過ごしいただけるようにしているが、お休みされたい方は日中でも居室内で休息されている方がいる。できる限り、メリハリのある生活を送って頂けるように介助等を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をファイルに綴じ、いつでも回覧できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や掃除、食事の準備・片付け等をできる範囲でお手伝いして頂いています。本人様が昔好きだったことなどを試しているが、なかなか継続して実行されている入居者様は少ない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物など、ご希望があれば支援しています。	寒い時期を除き、月に一度は全員ドライブに出掛けている。日常的には、外出希望者に付き添って近くのコンビニへ出掛けることもある他、葬式に参列するための支援も行っている。ただし、車椅子利用者の日常的な散歩等外出は現在のところ殆どできていない。	入居者にとっての外出とは気分転換の機会でもあることから、車椅子利用者も建物の別階や駐車場などを利用するなど、気分を変えるための工夫や配慮に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で金銭の管理を行っています。中には本人が所持していることもありますが、ご家族と連携し、金銭管理を行うようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の訴えがあれば対応しているが、家族様が時間を指定していることもあるので、注意している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度を定期的に確認し、利用者様の様子観察も行っている。	リビングは広々としており、大きい窓から海を眺望できる。天窓により明るく、温度や湿度も適度に調節している。昼間はほとんどの入居者がリビングで過ごしており、職員と一緒に洗濯物を干したり洗い物をする入居者おり、それぞれが居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり過ごして頂けるようにTV・ソファをリビングに設置している。ソファで利用者様同士でよくお話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子など持ち込まれている入居者様もいらっしゃる。使い慣れているようで片付けなども自らされている。	週1回のシーツ交換時に掃除機での清掃を行っている。備えつけのベッドや筆筒の他、テレビやチェストテーブルなどを持ち込んでおり、色合いも考えた個性的な居室となっている。また、ポータブルトイレにカバーを掛け、おむつも職員手作りの箱に入れるなど目につかないよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には名前を貼り出し、部屋の間違いなどを防ぐようにしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念「愛と信頼、そして幸せ」のもと日々利用者様と生活させて頂いている。事業所理念などは掲げていない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の話し合いにも参加させていただき職員も利用者様も、地域の行事ごとに参加させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会などで自治会の方にも、入居者様の日常の様子など説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様などにご意見として頂いたものに関しては、参考にさせて頂いている。施設会議などでも周知を図っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運推進会議にも地域福祉課の方を招き、状況や取り組みをお伝えし、お話を聞かせて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束委員会を立ち上げ、拘束をしない取り組みなどの話し合いをおこなっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間でも話を行い、勉強なども行っている。利用者様の様子観察を常に行い、変化があれば報告するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中には後見人制度を利用している方もおられるが、現場職員への事業や制度についての話し合いなどは行えていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みの時点でも話はさせて頂き、理解を頂けるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族様からの質問やご意見などをお聞きし、サービスに反映させるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議の中で業務改善についての話し合いを全職員で行い、そのほかでも年に2回の個別面談を行っているが、その時だけでなく、日頃から職員とは様々は意見を交換している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回自己評価する機会を設けている。半期ごとの反省を踏まえて、新たな目標設定を立てています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内でも自主研修を開催し、職員が参加できる環境を作っている。また外部で実施されている研修の案内などがあれば、開示し、参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、他施設の管理者などと今後交流が出来ればと思っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の時にとにかく話を聞き、不安なことなどがあれば日々声掛けや確認などを一緒に 行うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努 めている	入居時に家族様と話を密に行い、不安や疑 問などに返答・対応などをする。契約を交わ す際に細かく話を行っており、約2時間以上 は費やしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」 まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も 含めた対応に努めている	本人様のニーズと家族様のニーズを確認 し、必要性を確認。対応方法などを話し合い する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮ら しを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んだり、干したり、簡単な作業は 職員と一緒にいるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人 と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関 係を築いている	入居者様の希望と家族様の望むものが必 ずしも同じとは限らないので、必要があれば 一緒に話を行い、入居者様に最良となるよ う支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との 関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問美容などもあるが、本人様がいまま での美容師などを希望すれば、依頼などを している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに 利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	レクリエーションなども行っているが、利用 者様同士が話しやすいようにリビングでも職員 が間に入って話をしたりしている。またトラ ブルにならないように日頃の関係性なども踏 まえ、座席の場所なども考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となった方のほとんどが、病気などで施設復帰困難となり長期の入院になっている。入院先のご様子など伺っていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様とは日頃から話をさせて頂く中で、ご希望などないか聞いている。困難なことを希望されることなどはいまは無し。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴等をフェイスシートで把握し、職員全員で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の業務日誌や夜勤日誌などを必ず確認するようにしている。業務に入る前にも職員間で一言変化などについて話をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、事前に現場職員からの情報をもとに、ケアの見直しをしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にカンファレンスを行い、日々の変化で変わったことがあれば記録に残し、業務に入る職員にも状態を伝えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他のサービスは受けていないが、本人様から何かしら希望があれば、対応できるように家族様に相談させて頂く。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な物など地域にあれば一緒に外出し利用している。その人らしい生活ができるように支援する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様が以前からのかかりつけ医を希望することもできる。情報の共有などを図り、入居様にとってよりよい施設となるよう支援する。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で1名の看護師がいるが、公休などでない日もある。事前に体調不良などが続いている入居者様の様子などは休みでも報告を行い、情報の共有は常に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行った際などに、状況の確認を行い、入院期間や退院後の対応などを情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前指示書を取り、どのように対応してほしいかなどのお話をしているが、なかなか答えを出せない家族様が多くいらっしゃるので、何度でも話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあるので各ユニットに貼りだし、活用している。、職員一人だけという状況は無いので、一緒に居る職員と協力し、看護師・管理者への報告などを早期に行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月の消防訓練に合わせて、非常災害時の勉強会も行い、落ち着いた行動が取れるように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切な言葉遣いで対応出来る様に声を掛けあっています。利用者様の情報などを話時などは、周りの利用者様などに聞かれないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	突然の外出希望などは対応できないこともあるが、施設内でのことなどは利用者様本位で対応するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、本人の意向に沿った支援を行っているが、スケジュールなどはある程度決まっている。無理に参加はさせないようにしている。職員からは助言や提言などを行い、利用者様同士でも楽しく過ごして頂ける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を毎月行い、利用者様の整容なども来がけて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を定期的に行い、好みに合うように提供している。準備・片づけも出来る方は一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立・味付けの指示などは栄養士からあり、水分補給の量や食事摂取量なども記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	事業所内で口腔委員会を立ち上げ毎月の介護を行い、協力委の歯科医師にも毎月参加していただき、現状の確認と、今後の方向性などを話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	事業内で排泄に関する委員会を立ち上げている。本当におむつが必要か・リハビリパンツではなく、布パンツで対応できるなどを話し合い、実際に改善できている方が多い。職員の負担となる部分もあるが、全員で考え方を統一できるように活動している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬で調整もしているが、レクリエーション時に体を動かしたりしている。水分の補給も細目に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けを行い、入浴へお誘いしている。その時が駄目でも時間を置いて入られることもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、極力臥床し、民様でお過ごしいただけるようにしているが、お休みされたい方は日中でも居室内で休息されている方がいる。できる限り、メリハリのある生活を送って頂けるように介助等を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をファイルに綴じ、いつでも回覧できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や掃除、食事の準備・片付け等をできる範囲でお手伝いして頂いています。本人様が昔好きだったことなどを試しているが、なかなか継続して実行されている入居者様は少ない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物など、ご希望があれば支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で金銭の管理を行っています。中には本人が所持していることもありますが、ご家族と連携し、金銭管理を行うようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の訴えがあれば対応しているが、家族様が時間を指定していることもあるので、注意している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度を定期的に確認し、利用者様の様子観察も行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり過ごして頂けるようにTV・ソファをリビングに設置している。ソファで利用者様同士でよくお話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子など持ち込まれている入居者様もいらっしゃる。使い慣れているようで片付けなども自らされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には名前を貼り出し、部屋の間違いなどを防ぐようにしている。		